

令和元年度 鹿児島県がん診療連携協議会 議事要旨

開催日時：令和元年10月30日（水）15：00～16：30

I.開会に当たり上野腫瘍センター長挨拶後、鹿児島県くらし保険福祉部健康増進課岩松課長より挨拶があり各出席病院については座席表にて確認。

（中川教授より、がん登録が充実してきており、よりよい診療に結び付けていきたいとの挨拶。）

II.議題

1. 令和元年度鹿児島県がん診療連携協議会の報告

上野委員長及び各部門より資料に基づき説明があった。

・拠点病院の選定方針について

（県庁壹岐係長より更新・新規指定の推薦を先月、厚労省に提出した旨の報告があった）

・小児がんについて（ネットワーク化 AYA 世代への対応 医療安全推進）

・がんゲノム医療推進コンソーシアム→国が力をいれて体制ができつつある。

データ→情報管理センターに集められ登録されていく。

本学で、ゲノム検査冊子を作成中

・臨床研究部会は廃止となった。

・がん薬物療法部会設置については、保留となった。

（石塚教授より、薬物専門医県内12名一少ない人数のなかで各診療科・臓器別バランスをどうとっていくかが課題）（横断的な専門医の養成が課題）

（小林教授より、コンパニオン診断がはじまり、遺伝カウンセリングが表裏の関係で必須となってきます。

認定カウンセラーの人材確保がきびしいため、人材情報提供の依頼があった）

登録部会（中筋診療情報管理士）

がん拠点病院—中級認定者配置が必須となっている。

全国集計→臓器別集計が進んでいる

（院内登録スタッフの精度管理が重要になっている。）

血液がんについてWHOに新たに詳細に集計される。

・集計データは調査研究に利用されととしてるだけでなく、クリニカルインディゲーターとして拠点病院の項目として重要視されていく。

・鹿児島県のデータ集計の報告をする予定。

相談部門（川窪看護師）

24～30年のがん相談支援部会の取り組みの報告

・PDCAチェックリストの活用について→部会として都道府県の現状をふまえて自由に活用

・地域相談フォーラムについて（実行委員の協力要請・佐賀県で開催予定）

・小児情報交換会報告 小児がん拠点病院はブロック単位で活動

（PDCA実施状況チェックリスト→チェックリストはまず使ってみてくださいとのこと）

緩和ケア部門（恒吉ゼネラルマネージャー）

・拠点病院指定要件の見直しにおける緩和ケア関連事項について

ケアプランニングを中心に説明

（ACPの取り組みについて 相良病院院長から 鹿児島県の取り組みの紹介）

- ・体制整備← 地域にある課題

PDCAサイクルの確保①拠点病院 ②都道府県 ③全国

(鹿児島医療センター松崎統括診療部長より ナビゲータについて 鹿児島では4施設 どういう役割を
果たせばよいかをつなぐ役割—行政、医師会等との連携調整)

2.各部門報告

がん登録部門 (中筋診療情報管理士)

- ・拠点病院、指定病院が国立がんデータに公表されている。
(資料) 鹿児島県の初回治療が10症例以上の施設のデータ
- ・データ公開について、問題点・検討事項をあげ、実務者のデータに対する理解が大切
患者の視点からどういうデータを求めているか検討が必要 (サポートブック掲載を検討)

がん相談部門 (川窪看護師)

- ・がん相談支援部会の4つの班の活動紹介
研修企画班 (研修 AYA世代 情報集約等重視 PDCA)
活動評価班 (アンケート実施・評価→ 今後につなげる)
情報誌作成班 (がんサポートブック)
広報・周知班 (行政と連携 施設訪問)
 - ・がん相談部門活動計画シート (4班の活動計画表 PDCA サイクル)
- PDCA チェックリスト (赤丸が重要項目)
- ・今後の課題 (PDCA チェックリストの活用・AYA世代に対する体制整備)
- ・3/14 に第3回部門会実施予定

緩和ケア部門 (恒吉ゼネラルマネージャー)

- ・PDCA サイクルの確保 (お互いの体制評価・ピアレビューの実施支援)
- ・地域連携—ACP 推進を中心に連携

化学療法部門 (鈴木部門長)

保険診療下での遺伝パネル検査の運用説明がなされた。

- ・当初 NCC オンコパネルのみの運用
- ・患者紹介フローについての説明
- ・患者本人に結果説明できなければ、48,000点は請求できない。

III.閉会挨拶

鹿児島大学病院腫瘍センター鈴木副センター長から、閉会の挨拶があった。

終了